

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 令和 6年 4月 1日

事業所名 ANDY

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		各スペースをスケジュールにて割り振り、定員の適性を確保している。	・今後も継続していく
	2 職員の配置数は適切である	○		職員間で連携を行い、個別での支援、小集団での支援を行っている。	・今後も継続していく
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		各スペースの機能を明確に示し、構造化に配慮している。ただ、設備上急な階段があり、2階部への車いすでの侵入は困難である。手すりや高さ調整のステップは各所に設置してある。	・階段の昇降の際には、声掛け支援を継続する ・今後も室内の導線に物を置かない ・追加可能な部分のバリアフリー化を目指す
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日清掃・消毒を行い、各スペースの機能を明確に分け、子供にもわかりやすくしている。	・更にわかりやすい空間を目指す。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々、利用児の状況把握、目標設定、振り返りを行っている。また、毎日事業所内での情報共有を行っている。	・定期的なミーティングは継続していく。さらに必要に応じて臨時の会議も行っていく
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1度アンケート調査を実施している。集計を行い、結果を職員に明示することで業務・サービス等の改善を図っている。	・アンケートで挙げられた内容を精査し、改善に努めていく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	・今後も継続していく
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・現状行っていない。今後検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に事業所内、外部、社内含め研修を行っている。	・今後も継続していく
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		言語聴覚士による各種検査や、保育士による日々の観察、心理師による各種アセスメントを行い、定期面談での保護者ニーズを踏まえて計画を作成している。	・今後も継続していく
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			・今後も継続していく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		今後も各項目に合わせた具体的な計画を作成し支援を行う。	・今後も継続していく
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に基づき日々のプログラムを作成している。	・今後も継続していく
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		各職員の様々な意見をもとに、利用児それぞれのプログラムを作成している。	・今後も継続していく
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		豊富な種類のプログラムを用意し、支援を行っている。その日の利用児の状況によっても適切に支援が提供できるように、準備している。	・今後も継続していく
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		心理面も重視し、利用児に寄り添った計画を作成している。他児との関わりも少人数から行えるように支援している。	・今後も継続していく
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日までに、利用児名、利用時間、送迎の有無、前回までの状況の確認、全体スケジュールの確認を行っている。	・今後も継続していく。報連相の徹底を一層図っていく
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		個別記録をもとに、次回利用までに全体で状況の共有や支援の振り返りを行い、次回までに支援内容の検討を行っている。	・今後も継続していく
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を通して児童の状況の確認を行い、気づきを話し合っている。	・今後も継続していく
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		年に数回定期面談を行っている。それ以外にも送迎時等に都度モニタリングを行い、計画の指針としている。	・今後も継続していく	

関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		心理職員等が参画し、現在の様子を踏まえて分析した状況などを共有している。	・今後も継続していく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		連携小児科、子育て支援無料LINE相談窓口、宇都宮発達センター、宇都宮LDサポートセンターと連携している。	・今後も継続していく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			・現状、医療的ケアが必要な児童の受け入れをしていないが、今後必要の際は連携を行う。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			・その必要性がある児童の受け入れをした場合には行っていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行する場合には利用児の利用施設と連携を図り、当施設での情報をまとめ、提供している。	・今後も継続していく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		宇都宮LDサポートセンターと連携を図り、研修等を行っている。また、系列放デイ事業所との共同研修もしている。	・今後も継続していく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		利用児の兄弟参加のイベントを行い、その際に障がいのない子どもとの交流を図っている。	・今後も継続していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			今後も状況をみながら参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の際に口頭で施設やご家庭での状態の共通理解を図っている。必要に応じて電話やLINEでの連絡や相談もしている。	・今後も継続していく
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		ご家庭の状況を踏まえ、各相談に対し一緒に対応策を考えている。	・今後、ペアレントトレーニングとしての情報提供も積極的に行なっていきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に面談マニュアルに沿って、チェックしながら行っている。	・今後も継続していく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		児童発達支援計画の作成時、更新時に面談を行い、疑問点等がないように質問等も受けながら、支援内容を説明し、同意を得ている。	・今後も継続していく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		常に傾聴の姿勢を取り、相談しやすいような体制をとっている。	・さらに相談の機会を増やしていきたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会を試験的に行っています。	・イベントの際に今後も小規模な保護者交流会を行えるように計画中。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談しやすい環境を心がけています。	・直接のご相談だけでなく、電話や、LINE等でのご相談も継続していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年間カレンダーをお渡しし、保護者様向けLINEでの情報配信も行っている。	・今後は写真等で活動の様子も伝えられるように整備していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		スタッフに取り扱いについて研修を行うとともに、鍵付きのロッカーに保管している。	・今後も継続していく
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		誤解のない円滑なコミュニケーションが取れるように、職員への教育と齟齬がないように保護者様への確認と配慮を行っている。	・今後も継続していく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			現状、行っていないが必要に応じて今後検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			保護者への周知がまだ徹底されていない。改めて書面での周知を行う。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		利用児を交え年2回程の避難訓練を行っている。散歩にて利用児全員に避難場所の確認を一度は行うようになっている。	・保護者への説明を書面にて行う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入会時に持病の有無などの聞き取りを行っている。	・今後も継続していく

44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		入会時にアレルギーの有無の聞き取りを行っている。	・今後も継続していく
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		記録として残しており、発生後は直ちに共有している。	・今後も継続していく
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修等を行い、常にお互いの監視もを行っている。	・さらに啓発を行っていきます。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		少人数の支援体制なので身体拘束をしない方針で支援を行っている。	・今後も、身体拘束は行わない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。